(九) できな人も少いが―― 櫻谷氏のですきな人も少いが―― 櫻谷氏のである。むろん。電がといってある。むろん。電がといっている。

H

篠つく俄雨が

の話をするのであった。

じもガラッとくれば先生は慄へあ

劉く夏にとつでは申分のない情景に あつて、ガラ () ゴロー (と天に

外は残害の日照り強く、 格西女立要排院の邸でと くの庭に踏を落して日本間應接室といが、横込みの大杉が密敷ちかどいが、横込みの大杉が密敷ちか 住んだ當時と、現在の衣室山麓と は原しい。十二年前等持院に移り の移り競りを談じた後、脳伯は いとてもひ

まりませんがたと、気が心配でた

由 は ない 0)

とてもにぎやかである、目下簡伯

なのです、電が鳴ると給重は一がら常膜出品の畵材あつめに炎天 いふ詞でもなし、何となく娘ひ です、子供の時常館にあつたと

は触ひも難ひ、とても大型なもの

中で小さくなつて兩手で耳を押へ 居間の戸も獲もしいて座敷の気ん る、稻裏の光り物はく即宅の上で はるか遠くに鳴るとびつしやり 雷の鳴る心配だ、コロくく人 である。夕立雲が云來するとモウ 子ぼんのうの木島櫻谷氏

生旅行なんかにも同にも心配あ 雷はとても鬼門ですれ、窓 の子達があられる、春子夫人の身間似け子ほんのうで、お宅は澤山 ちちの方や先生の親類の子供やい ……ハハ・・こ

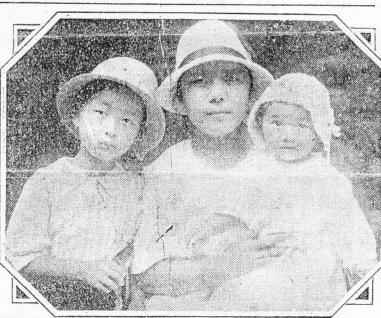
雷 を

氣 1= i な とその

G

ゴロッと鳴るとすぐに縮み上る

という話があるが標谷氏のはそん いてみようかと思ってゐます ものですよ、ハハ、、、簡単が かしから線香たてく蚊帳を吊る ら胚敷へかけ込む始末でネー



層は十五日より三日門梅ヶ畑村八年屋は被害寺境内で、梅ヶ畑青年 常の十五六南日は嵯峨町字原區青 紀の十五六南日は嵯峨町字原區青 午後七時同寺弘法大師御際堂で執後字を天皇御野紀の書の法書を計り 北嵯峨節り、六齋念佛などあり甘行同夜余興として日活の活動寫眞 洛西嵯峨町盗嵯峨御所大処寺では 一日には花道曾館で催すなほうら 大覺寺の宵弘法 青年團の盆踊

新した。 氏を組合長 第色の浸物 る神愛済 際下一の一 数質照要 ひの愛知川 ない事であ

元気はつらつとした娘さんで府立と仰しやる、令嬢様子さん(1と)はより、はるかに可といるんですよ」 ひ、一赤ん坊から育てるとわが子よ 第一高女に通學中である(寫眞は は「わたしの子供です 製成の金属金属信は自分の 質ない。 を関して時折割生に出かけてある 資親戚の方々である、しかし先生 子として敬資されてゐるが、その しとい

は開閉一問年に高たるので動物的 午後六時 十銭増) シーが最 鍵で耐後 爾後四分

一般の機格、砂質状態との他につきこまかい材料を集めてあるか

所放これたが、各所とも極めて好成

遊戲に親んだ樂いつどひは

きのふで終了

校式を暴げ幼い子供達が三

週間の長い間勉强にいそし

鯉釣大會 が力を入れてゐる河田

五ヶ所は十四日いづれも聞い 京都市教育會主催林間學校

近く興味ある統計表が出來上るはずである

等まで賞

農事試驗場 取に努む 犬上郡の運動

競響や測候所などの適地として連から經過を報告した上郡は水産社 から經過を報告した上郡は水産社 がら經過を報告した上郡は水産社 上郡有力者廿余名は十四日高宮町 農事試験場移轉問題につき式

時金と俵米品景引福大の博

すまりあろいろいに外だま―計

環館の職子船が縦屋ヶ関沖合で强 十三日午後九時頃大津市大間町納

噺子船の遭難

込んだが怪我はしなかつた 近がゴロノ〜と水田の中にころげ 朝手西加健一が十三日午後一時半 街道で田の中に墜落し澤山の西 嵯峨野から京都県へ行く途中二

色の試験をする計畫であるが既記 職場まで大熊管で揚げる試験をや てゐるが「野は五、六千円を増す るはずで日下設計のやり直しをし ぼすので考慮を重ね結局湖水を試 いので行詰つてゐたところこのま の通り用水に鶴質の含有が甚だし 敗良をはかるため際は今度闘繁の くでは同試験場存在の可否にも及

京都市出 しは十四 物の事か なほ たので由

濱工業